



モエツ★カムイ 125

NO.

●モユク・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。

July 2025

ASAHIYAMAZO NEWS

あさひやまどうぶつえんニュース

ホロホロチョウ

Numida meleagris var.

もくじ

ぼくは動物大使 その86

食鳥の女王 ホロホロチョウ 1.2

特集 共生展示の取り組み 3.4

飼育研究レポート 5

雪山保存プロジェクト

～雪を保存して夏まで残し、
暑さを乗り越えろ!～

こども牧場からのお手紙 6

～イヌの「ごはん」が来園しました～

新人スタッフ紹介

主なできごと・編集後記・飼育動物数 ... 7

ホロホロチョウ

学名 *Numida meleagris*
分類 キジ目
ホロホロチョウ科

原種(カブトホロホロチョウ)はアフリカの開けた森林や草原に生息する。日中は地上で生活し、眠るときは樹上に移動する。集団性が強く群れで活動し、天敵を取り囲んだり雛を守るよう陣形をとったりする。繁殖期になると、オスは縄張りを持ち、集団性は薄れる。危険を感じるとけたたましい大きな声で鳴き始め、走って逃げるか短い距離であれば飛翔する。昆虫や種子、果実などを食べる。

家禽としても流通しており、さまざまな食に利用される。

ホロホロチョウの分布



アフリカ
中部より
南側

ホロホロチョウ科

ホロホロチョウ(家禽種)は元々カブトホロホロチョウという種を家禽化させたものになります。
ホロホロチョウの科でいえば全6種類で見た目も全然異なります。



フサホロホロチョウ



ムナジロホロホロチョウ



カンムリホロホロチョウ



コカンムリホロホロチョウ



クロホロホロチョウ



カブトホロホロチョウ



ホロホロチョウ

家禽化

ぼくは動物大使 その86 食鳥の女王 木回 木回 チョウ

羽

羽の色は黒色寄りであり白い水玉模様が全面にある。飛翔はできるが、飛行はできない。時々まっ白な風切羽が生える。



大きさ

体重 1.5~1.8kg
体長 40~60cm
翼開長 60~80cm

強靱な足

蹴爪が生えており、喧嘩の際には蹴りも用いる。また巣穴を作る際にも足で穴を掘って巣を作り産卵する。



顔

骨質の頭部の突起と広く開いた肉垂が特徴。頭部の突起の形状は種によって異なる。



性別

外見上の違いはほぼない。オスは縄張りを持ち、オスメスで鳴き声が異なるため、けんかっ早くひときわ声が騒がしいのがオス。

繁殖

とにかく病気に強いが寒さに極端に弱い。非常に神経質。

繁殖

5月半ばから有精卵を確認しました。日中は外で産卵するためカラスに持っていかれることも多かったが、回収できる分は回収し人工での孵化を試みました。

孵化までの日数は27日前後であり、温度37.7℃湿度55%で転卵を行いました。

孵化予定日6日前には湿度61%まで上げ、転卵を停止。6月11日に1羽目が孵化。現在進行形で続々と孵化をしています。

早熟性のため、生まれた日から歩き回り自力での採食も行っています。展示に関しては金網から抜けられない大きさに成長するまで放飼できないため、来年度以降の展示になる予定です。



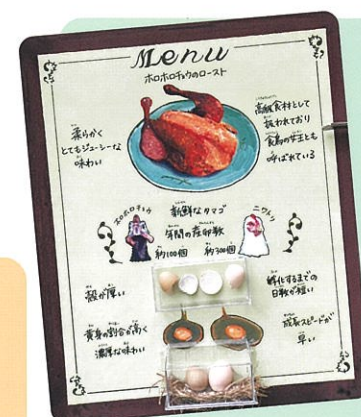
食の話

フランスでは定番の食材として利用されているホロホロチョウ。

日本でも高級食材として扱われ「食鳥の女王」とも呼ばれる。肉だけではなく、卵も高級。(卵1つで800円程度)

卵は黄身の割合が多く、非常に濃厚な味わい。ニワトリよりもひと回り小さな卵ではあるが、殻の厚さは1.5倍ほど。机に当てる程度ではびくともしない。卵の劣化も遅く、頑丈なため輸送も安全に行える。

家禽種の産卵間隔は24時間22分で1個。日本では4月~10月の間に100個ほど産む。



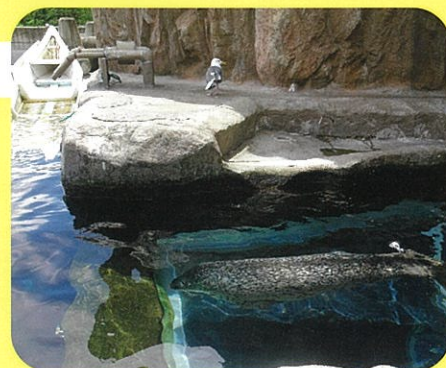
特集 共生展示の取り組み

「共生展示」 とは?

生息地を同じくし、生態学的地位の異なる別種の動物を同じ空間で展示する手法で、お互いの存在を意識し合いながら生活することでいい距離感を保ち、適度な緊張感を持ちながら過ごすことで、退屈な時間を少しでも減らすことができれば…というのが狙いです。

あざらし館 【アザラシとカモメ】：北海道

あざらし館では水中にアザラシ、陸上にカモメが暮らしています。カモメはたまに上陸してくるアザラシをちらっと気にする様子が見られます。あざらし館は北海道の小さな漁港をイメージして作られていて、消波ブロックがあったり漁船が浮いていたり、のどかな雰囲気を再現しています。



さる山 【ニホンザルとニホンイノシシ】：本州

本州の山では当たり前にいる両者。初めてさる山にイノシシを放った時、サルたちは常に対角線上の山の裏に隠れ、イノシシが右に動けばサルは左へ集団移動とかなり警戒していましたが、今ではすっかり認めあったようです。

おらんうーたん館

【ボルネオオランウータンとボルネオカワガメ】 ：ボルネオ

なかなかシュールな組み合わせ。オランウータンは最初上からジ〜っとカメを見つめていました。オランウータンは水が苦手なのでいたずらしたりはしないのです。



くもざる・かぴばら館 【クモザルとカピバラ】：中南米

こちらもクモザルが樹上、カピバラが水中、陸上は共有スペース?また活動時間もクモザルは日中活発に、カピバラは夜行性で日中はのんびり過ごしています。

きりん舎 【キリンとホロホロチョウ】：アフリカ

キリンは足が命!ちょろちょろと動き回るホロホロチョウを避けようとキリンの歩数が増え、日常的に蹄が自然に削れてくればというのが狙いです。



かば館 【カバとティラピア】：アフリカ

「でっかいのが潜ってきたぞ〜」「わぁ〜」という感じで上手にかわすティラピアたち。カバはさほど気にしてなさそう?!野生でもこんな感じなのかなあ?



シロテテナガザル
とキョン



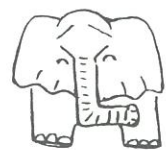
ほかにも「シロテテナガザルとキョン」「エゾヒグマと魚」過去には「ゾウとペリカン」などなど。仲よく暮らすというよりは互いを意識し、互いを認め合い「こう動いたらこうくるかな?」などを想像しながら生きる。人間社会も同じような気がして、また動物から学ぶ今日この頃でした。



エゾヒグマと魚



ゾウとペリカン



飼育研究レポート

雪山保存プロジェクト

～雪を保存して夏まで残し、暑さを乗り越えろ!～



2024年9月28日、私たちは米農家さんを訪問し、脱穀が終わったもみ殻の山の前に立っていました。そしてこれを大量に袋詰めし、750袋をトラックに乗せて動物園の倉庫に保存しました。



もみ殻の山



トラックの荷台へ 750袋

そして、まだ雪がちらつき寒さの残る2025年3月10日、ついに新しい環境保全の取組をスタート! その名も、『雪山保存プロジェクト』です。

これは、冬に大量に降るやっかいものの「雪」を夏まで保存し、夏の暑い時期に取り出して動物に使って涼んでもらうという計画でした。まずは、こども牧場のスタッフや除雪作業班と一緒にニワトリ・アヒル舎横に雪山を作りました。

そして、雪山にもみ殻袋を規則正しく積み上げて、雪山をコーティングしていくのです。この作業は自校で同様に雪を保存している旭川高等支援学校の生徒たちと一緒に行いました。



ニワトリ・アヒル舎横に作った雪山



もみ殻を規則正しく積んでいく作業



もみ殻を積んだ雪山(完成)

さて、時は経ち、気温も30度を超えた6月。雪山は想像よりかなりちっちゃくなっていました。

しかし、もみ殻をどけてみると、あったあった! まだまだ雪は残っていました! さっそくスコップで掘り出して運び、本来は寒いところに住んでいるシロフクロウの獣舎に入れてみます。来園者の方々から

も「なんでこんな時期に雪が?」と声が上がっていました。さて、肝心のシロフクロウは...じっと雪を見つめて...何もせず!(ガッカリ...)



保存した雪を取り出す



シロフクロウの獣舎に入れた雪

また、暑さで辛そうにずっと座っていたエゾシカの雄にも雪を与えてみました。すると...あ! 食べた!



夏に雪を食べるエゾシカのオス

エゾシカのオスはその後、少し楽になったのか? 数時間ぶりに立ち上がりフラフラと歩き出し、水を飲みに行くことができました。さて、色々課題が見えてきました。

雪の保存に関しては、どうやらもっとしっかりした日陰に設置しないと大幅に溶けてしまうようです。また衛生状態に気をつけながらいろいろな動物に与えてみて、どこまで効果があるかを確かめるなどして、来年に向けた課題を積み上げたいと思っています。暑くなってきた旭川の夏をエコに乗り越える方法を確立できるのか!? 厳しい道のりは続きます。乞うご期待。

(教育保全担当 上江昌弘)

こども牧場からのお手紙

～イヌの「ごはん」が来園しました～

今年の3月に来園したラブラドル・レトリバーの「ごはん(メス)」。

来園して約3ヶ月が経ち、環境にも大分慣れてきたところです。「ごはん」は性格が少し怖がりなところがあるのですが、人はとても大好きな個体です。散歩も園内にでかけていますので、散歩中に会えると、ふれあいもできたりします。

この「ごはん」が来園するまで、約10ヶ月の間、イヌの放飼場が寂しい時期が続きました。

それは、去年の5月にラブラドル・レトリバーの「だいち」が亡くなってからとなります。

イヌの飼育については今後どうするかずっと悩んでいました。来園者の方々からは、「だいちはいないんですか?」、「またイヌに会いたい」、「次のイヌは来ないんですか?」というたくさんのお言葉をいただいていたが、なかなか踏み出せない状態でした。

来園者の方々のイヌの印象がとても強く残っていることに心を動かされ、イヌをもう一度飼育しようと決断しとところ、タイミング良くラブラドル・レトリバーの「ごはん(当時7ヶ月)」がやってきたということになりました。

これからは「だいち」の後を引き継ぎ、「ごはん」がイヌを伝えていくことになっていきます。

現在は、外の放飼場にいたり、いないときはスタッフルームで休んでいることもありますが、そんなこども牧場の新しい仲間である「ごはん」に会いに来ていただければと思います。



左が3月の様子。
右が6月の様子。
顔つきも体型も
変わりました。

新人スタッフ紹介

4月から新たに飼育スタッフが正職員として加わりました。今後の成長を見守っていただけると幸いです。



こくほ かずあき
小久保 和明 【担当：ダチョウ・こども牧場】

出身地 北海道岩見沢市

好きな動物 クマ、フクロウ

趣味 映画鑑賞

旭山動物園の印象 動物達が近くて、生き生きしている!
来園者の方々に気持ちよく楽しんでもらえるように、毎日職員が連携し合っている。

意気込み 飼育員としてはまだまだ不慣れな面が多いですが、旭山動物園の力になれるように日々の業務を頑張っています。

主なできごと

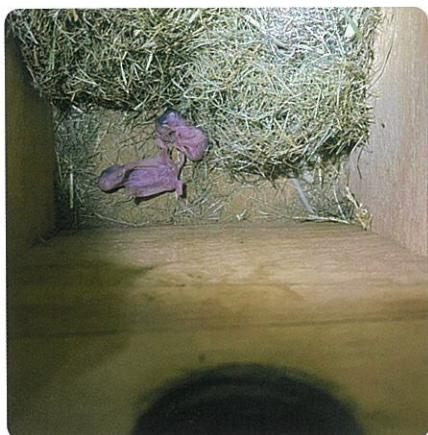
4月16日 エゾシカ雌2頭安平町鹿公園より来園

4月26日 夏期開園日

4月26日～7月25日

花王国際こども環境絵画コンテスト作品展
(動物園内いこいの広場休憩所にて)

5月6日 エゾモモンガ「べに」出産(2頭)



5月23日～6月1日

アムールヒョウ子愛称募集

5月24日 トナカイ「デナリ」死亡(循環不全)

5月31日～6月15日(土日曜日)

あさひかわ菓子博連携スタンプラリー実施

6月6日 トナカイ「麻生」出産(1頭)



6月7・8日 旭山スーZOOフェア

(旭川市立大学短期大学部・旭川調理師専門学校・旭川農業高等学校)



6月18日 エゾライチョウ孵化(人工)

6月28日 いのちの青年弁論開催

6月28日 あさひやま・キッズ・ZOO開催

6月29日 シンリンオオカミ「アオイ」(メス)死亡(心不全)

編集後記

春の閉園期間もあわただしく過ぎ、無事に2025年度の夏期開園を迎えました。昨年に続きエゾモモンガ舎ではエゾモモンガが出産し、トナカイは7年ぶりの出産がありました(父親のデナリは5月に残念ながら亡くなりました)。今後どんな一年になっていくか楽しみです。

また、今年は園内で複数種の毛虫が大量に発生しています。夏にはみんな蛾になり、飼育事務所の白い壁

にたくさんとまっている姿が想像できます。数年前には雪虫が大量発生した年もありましたが、何かの周期があるのでしょうか?これから暑い季節になりますので、皆さん毛虫かぶれだけでなく、体調にお気をつけ下さい(今年は動物病院にエアコンが設置されて、獣医師も動物も喜んでます!)

(中村)

最新情報は
ここでチェック!!



Facebook



X
(旧Twitter)



Instagram



モユク・カムイ No.125 令和7年7月15日

●発行所/旭川市旭山動物園

〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104

●発行人/田村 哲也

●表紙絵/原田 佳

●編集/中田 真一・中村 亮平・佐賀 真一・大西 敏文・鈴木 達也

原田 佳・上江 昌弘

●印刷/株須田製版: 〒063-8603 札幌市西区二十四軒2条6丁目1-8 ☎011-621-1000



飼育動物数

令和7年6月末現在

●哺乳類 41種・317点

●鳥類 47種・275点

●は虫類 9種・28点

●両生類 3種・25点

●合計 100種・645点